

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【公表番号】特表2006-515289(P2006-515289A)

【公表日】平成18年5月25日(2006.5.25)

【年通号数】公開・登録公報2006-020

【出願番号】特願2004-556168(P2004-556168)

【国際特許分類】

C 0 7 D 261/20 (2006.01)

A 6 1 K 31/423 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 0 1 N 43/80 (2006.01)

C 0 9 J 201/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 0 9 D 5/14 (2006.01)

C 0 9 K 5/08 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 261/20 C S P

A 6 1 K 31/423

A 6 1 P 31/10

A 6 1 P 31/04

A 0 1 N 43/80 1 0 1

C 0 9 J 201/00

C 0 9 J 11/06

C 0 9 D 201/00

C 0 9 D 7/12

C 0 9 D 5/14

C 0 9 K 5/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月22日(2006.8.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

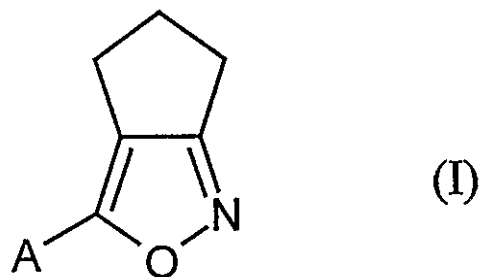
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

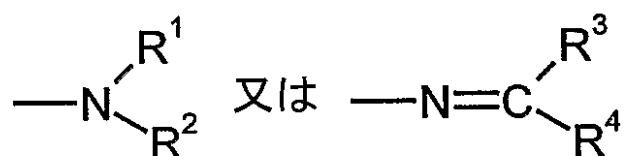
式(I)

【化 1】



[式中、
A は、基

【化 2】



を表し、

その際、

R^1 及び R^2 は、相互に無関係に、水素、ハロゲン、シアノ、ニトロ又は、それぞれ場合により置換されたアルキル、アルケニル、アルキニル、アリール、ヘテロサイクリル、 —COR^5 、 —CONR^6 、 —CSNR^7 又は $\text{—SO}_2\text{R}^8$ を表し、

その際、

$R^5 \sim R^8$ は、相互に無関係に、それぞれ場合により置換されたアルキル、アルケニル、アルキニル、アリール及びヘテロサイクリルを表し、

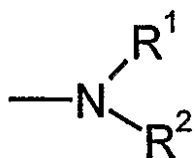
及び

R^3 及び R^4 は、相互に無関係に、水素、又はそれぞれ場合により置換されたアルキル、アルケニル、アルキニル、アリール及びヘテロサイクリルを表す] の化合物、並びにその塩及び酸付加化合物。

【請求項 2】

A が、基

【化 3】



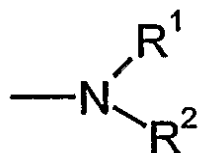
を表し、

R^1 及び R^2 は水素を表す請求項 1 記載の式 (I) の化合物の製造方法において、ヒドロキシルアミン又はその塩を、2-アミノ-1-シクロペンテン-1-カルボニトリルと、場合により希釈剤の存在でかつ場合により触媒量又は化学量論的量の塩基の存在で反応させることを特徴とする、請求項 1 記載の式 (I) の化合物の製造方法。

【請求項 3】

A は、基

【化 4】



を表し、

及び

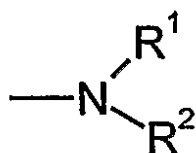
R^1 及び R^2 は、相互に無関係に、ハロゲン、シアノ、ニトロ又は、それぞれ場合により置換されたアルキル、アルケニル、アルキニル、アリール、ヘテロサイクリル、 $-C O R^5$ 、 $-C O N R^6$ 、 $-C S N R^7$ 又は $-S O_2 R^8$ を表し、

及び

$R^5 \sim R^8$ は請求項 1 に記載された意味を表す請求項 1 記載の式 (I) の化合物の製造方法において、

A が、基

【化 5】

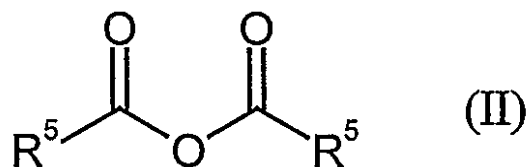


を表し、及び

R^1 及び R^2 は水素を表す一般式 (I) の化合物を、

a) 一般式 (I I)

【化 6】



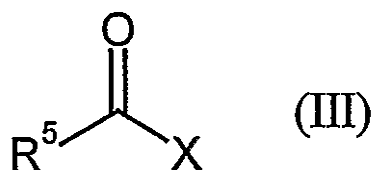
[式中、

R^5 は請求項 1 に記載された意味を表す] のカルボン酸無水物と、

又は

b) 一般式 (I I I)

【化 7】



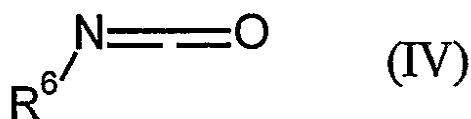
[式中、

R^5 は請求項 1 記載の意味を表し、X は Cl 及び Br を表す] のカルボン酸ハロゲン化物と、

又は

c) 一般式 (I V)

【化 8】



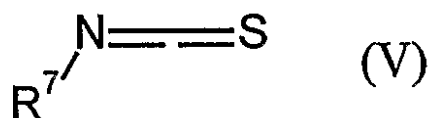
[式中、

R^6 は請求項 1 に記載された意味を表す] のイソシアナートと、

又は

d) 一般式 (V)

【化 9】



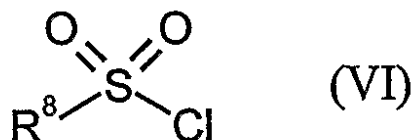
[式中、

R^7 は請求項 1 に記載された意味を表す] のイソチオシアナートと、

又は

e) 一般式 (VI)

【化 10】



[式中、

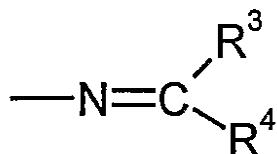
R^8 は請求項 1 に記載された意味を表す] のスルホン酸クロリドと、

場合により希釈剤の存在で、かつ場合により触媒量又は化学量論的量の塩基の存在で反応させることを特徴とする請求項 1 記載の式 (I) の化合物の製造方法。

【請求項 4】

A が、

【化 11】



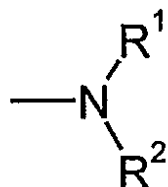
を表し、

及び

R^3 及び R^4 は請求項 1 に記載された意味を表す請求項 1 記載の式 (I) の化合物の製造方法において、

A が、

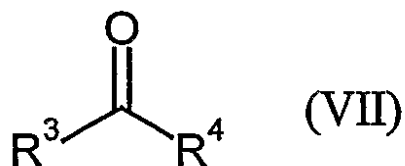
【化 12】



を表し、

及び R^1 及び R^2 は水素を表す一般式 (I) の化合物を、一般式 (VII)

【化 13】



[式中、

R³及びR⁴は請求項1に記載された意味を表す]のアルデヒド又はケトンと場合により希釈剤の存在で、かつ場合により触媒量又は化学量論的量の塩基の存在で反応させることを特徴とする、請求項1記載の式(I)の化合物の製造方法。

【請求項5】

請求項1記載の少なくとも1種の化合物及び少なくとも1種の溶剤又は希釈剤並びに場合により加工助剤及び場合により他の殺菌作用の化合物を含有する殺菌剤。

【請求項6】

工業材料の保護のための殺菌剤としての、請求項1記載の化合物の使用。

【請求項7】

請求項1記載の少なくとも1種の化合物を微生物に又はその生活空間に作用させる特徴とする、微生物による被害及び破壊から工業材料を保護する方法。

【請求項8】

請求項1記載の少なくとも1種の化合物を含有する工業材料。